

2007年11月22日(木)

ヒット・プロデューサーのEQ能力測定結果から開発した 能力開発プログラム「DPHP」の 効果測定実証実験結果発表

デジタルハリウッド大学・大学院生にて実施

この度、「株式会社ヒットコンテンツ研究所」(本社;東京都千代田区 代表取締役 吉田就彦 以下「HCL社」という。)では、HCL社が開発した人材能力開発プログラム『DPHP (Development Program for Hit-Producers)』(以下「DPHP」という。)の実証実験を終え、DPHPが、ヒットを生み出したプロデューサー(以下「ヒット・プロデューサー」という。)が総じて高い行動特性 5UP1DOWN (ストレス対処、ノンバーバルスキル、対人問題解決力、情緒的感受性、状況モニタリング、感情的被影響性)の開発に有効なプログラムであることが実証されましたので公表いたします。

本実証実験は、日本初の株式会社による専門職大学院であるデジタルハリウッド大学大学院(本校;東京都千代田区 学長 杉山知之 以下「大学院」という。)のヒットコンテンツ研究室(代表 吉田就彦大学院教授、以下「HCL」という。)が、日本におけるEQソリューションの研究開発会社であるEIリサーチ株式会社(本社;東京都新宿区 代表取締役 渡辺徹 以下「EIリサーチ」という。)の協力を得て、ヒット実績のあるプロデューサーに対して行なったインタビュー及びEQ能力等の測定検査(以下「EQ検査」という。)により明らかにした知見を基に行なった実験です。

ヒット・プロデューサーが持つ特殊な能力を開発するため、EQ (Emotional Intelligence Quotient) 理論、五感を活用したコミュニケーション心理学 NLP (Neuro-Linguistic Programming) 理論及び対人感性能力、変化対応能力に効果があるPLAY (演劇メソッド)などを応用したDPHPを、デジタルハリウッド大学の2007年度前期及び大学院の第1 trimesterにおいて、「ヒットプロデューサー能力開発演習」と題して講義を行い、同時に、履修生と非履修生とを比較することでそのプログラム効果を検証いたしました。

その結果、DPHPを受講した履修生25名には、ヒット・プロデューサーが総じて高い又は低い数値を出していた行動特性 5UP1DOWN (ストレス対処、ノンバーバルスキル、対人問題解決力、情緒的感受性、状況モニタリング、感情的被影響性)において顕著な伸びを示したのに対し、非履修生27名においてはほとんど変化がなかったことから、DPHPがヒット・プロデューサーの行動特性に近づいた

めに有効なプログラムであることが実証されました。

政府の知的財産戦略本部が策定した「知的財産推進計画 2007」においても、重要な課題のひとつが、国際的にも通用するヒットを作りうる優秀なコンテンツ・プロデューサーの育成であるとしています。

本実証実験結果により、今後、DPHP がコンテンツ・プロデューサーの能力開発において効果を上げることが期待されるとともに、プロデューサー型の人材が必要とされるこれからのデジタル社会において、コンテンツ産業だけに留まらず全ての産業の人材育成にも寄与できるのではないかと期待しております。

■ 実証実験概要

目的； DPHP プログラムが行動特性 5UP1DOWN に与える効果の検証

方法； DPHP プログラムによる講座「ヒットプロデュース能力開発演習」の履修生及び非履修生に対し、EQ 検査を履修前後で実施し、プログラム効果を検証

対象者； デジタルハリウッド大学生 履修者 15 名(平均年齢 20.8 歳、男性 12 名、女性 3 名)

非履修者 15 名(平均年齢 21.1 歳、男性 7 名、女性 8 名)

デジタルハリウッド大学院生 履修者 10 名(平均年齢 36.2 歳、男性 9 名、女性 1 名)

非履修者 12 名(平均年齢 30.8 歳、男性 10 名、女性 2 名)

履修者計 25 名(平均年齢 27.0 歳、男性 21 名、女性 4 名)

非履修者計 27 名(平均年齢 25.4 歳、男性 17 名、女性 10 名)

期間； 2007 年 4 月～8 月

■ 実証実験結果要旨

履修生については、行動特性 5UP1DOWN がすべて予想とおりに開発されていることが実証されたが、非履修生についてはほとんど変化が無かった

当初意図していなかった EQ 能力そのものも、履修生では、特に感情の識別、利用及び理解について大きく開発できていることが実証されたが、非履修生については大きな変化が無かった

行動特性 5UP1DOWN 以外のヒット・プロデューサーの行動特性で総じて高いものも同時に開発できた

■ EQ 検査について

EQ(Emotional Intelligence Quotient)検査は、すでに、あらゆるビジネスシーンにおいて、経営者、セールスマン、弁護士など、優秀な人材の能力開発に寄与している人材の能力を測定するツールです。

その科学的に検証されたツールにより、多数の実績あるプロデューサーの EQ 能力及び行動特性の測定が可能になり、ヒットを生み出したプロデューサーの能力タイプを明らかにすることで、ヒット・プロデューサー育成のための能力開発プログラムの作成が可能となりました。

■ DPHP (Development Program for Hit-Producers) について

・DPHP とは

デジタルハリウッド大学大学院のヒットコンテンツ研究室の「ヒット・プロデューサーの EQ 能力測定」研究から得た知見を基にし、HCL 社が開発したヒット・プロデューサーになるための EQ 能力及び行

動特性を開発するプログラムです。

・DPHP の構成

大学・専門学校向けの DPHP1 (スタンダード) と大学院生向け及び社会人の再教育向けの DPHP2 (プロフェッショナル) とがあり、ともに EQ パート、NLP パート、PLAY パート及び S-PLAY パートで構成されています。

・今後の展開

2008 年春までには、今回の検証結果を基に、DPHP 正規プログラム Ver1.0 を開発する予定であり、同時に、ビジネス・パーソン向けの DPHP for ビジネス・プロデューサーズも開発する予定となっております。

行動特性 5UP1DOWN について

24 の行動特性のうち、HCL の研究により明らかになった、ヒット・プロデューサーが有する総じて高く、又は低い行動特性 10 のうち、能力開発が可能で、開発効果が高い行動特性を指しています。ストレス対処、ノンバーバルスキル、対人問題解決力、情緒的感受性及び状況モニタリングの 5 の行動特性は数値を上げ、感情的被影響性は下げるということから行動特性 5UP1DOWN と総称しています。

【当プレスリリースに関する問い合わせ先】

株式会社ヒットコンテンツ研究所 担当: 吉田

Mail: info@hitcontentlab.jp

TEL: 03-5281-9226 FAX: 03-3292-2233